

診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業
第9回運営委員会 議事概要

日時 : 平成18年9月14日(木) 15:00~17:00

場所 : 日内会館 4階会議室

出席者:

(委員) 稲葉一人、岩佐和雄、上原鳴夫、大井 博、木村 哲、楠本万里子、黒田
誠、児玉安司、鈴木利廣、中園一郎、樋口範雄、山口 徹、
(地域) 深山正久、長崎靖、山内春夫、野口雅之、松本博志、
(オブザーバー) 岡崎悦夫(病理)、厚生労働省、警察庁、法務省
(事務局) 日本内科学会

0. 委員紹介等(委員の紹介、人事異動報告)

1. 「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」の状況について <公開>

現在の状況について

各地域の実施状況について説明

- ・調整看護師の人数の変更 東京地域 2.5名への常勤へ
新潟地域 1名常勤へ
茨城地域 1名常勤へ

札幌地域説明会の報告

- ・各方面からの出席があり好評

2. 厚生労働省における検討状況について <公開>

医療紛争処理のあり方に関する検討会(自民党)に提示した資料を説明

3. これまでの主な相談事例・受付事例について <非公開>

各地域の状況

死亡診断書と死亡検案書の取扱

警察との関係

監察医制度について

公平性、公正性について

家族と医療機関の認識のずれ

問題提起

司法解剖との違いについて

4 . 評価体制検討小委員会の検討結果について < 公開 >

評価体制検討小委員会報告書を報告

- ・ 特に異論無し
- ・ 評価結果報告書を作成する上で、各地域評価委員会において参考となるように、すでに完成された評価結果報告書を、個人識別情報を削除するなど個人情報保護に配慮しながら、他の地域評価委員会に提供することが有意義と考えられる。

5 . モデル事業開始 1 年後の評価について < 公開 >

検討方法

- ・ 以下のように 3 段階で評価できると委員より意見

第 1 段階

課題 1) 事例数

課題 2) 評価に要する時間

課題 3) モデル事業による評価に対する患者遺族・依頼医療機関の
反応

第 2 段階

課題 3) モデル事業による評価に対する患者遺族・依頼医療機関の
反応

課題 4) モデル事業の方向性について

課題 5) 再発防止に役立っているか

第 3 段階

課題 6) 医療界の信頼回復につながっているか

課題 7) 今後の事業の進め方

- ・ 検討手段としては、以下のものが考えられると委員より意見

何日間かけて議論する方法

小委員会のような場をつくる方法

評価委員になった委員や医療機関、可能であれば遺族に参加してもらい
議論する方法

- ・ 検討事項を絞り、評価委員全員にて会議を開催し意見を伺う方法もあると委員より意見

検討内容

・制度化について向けての提言

診療行為に関連した死因が特定できない死亡が年間 4000 件あり、今のモデル事業の受付事例であれば、全国の 1 % しか把握できないような現状であり、制度化に向けての提言につながるような検討が必要と委員より意見

モデル事業で、何を狙っているのかを明確にしないと、方法等が適切であったかの判断ができないのではないかと委員より指摘

死因究明がどこまで進んでいるのかを評価すればよく目的は明らかであると委員より指摘

6 . 今後の予定について < 公開 >

今回は、10月末から11月とする。連絡はメール等にて行う。